

大豆跡「みずかがみ」の収量向上を目指す

東近江農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

経営所得安定対策の見直しで米の直接支払交付金が廃止され、経営体の収益確保を図るには、米の増収がより重要となってきました。

大豆跡には倒伏しにくく高収量の「キヌヒカリ」が多く作付されており、実需者からの要望が多い「みずかがみ」に転換するには540kg/10a程度の収量確保が必要です。



写真 肥料の残量から投入された量を測定

県の栽培指針では、大豆跡は水稻跡の半量以下の施肥となっています。対象法人では、施肥量が設定値どおり施用できているか確認できていませんでした。そこで、今年度は設定施肥量の確実な施用と大豆跡栽培用に肥料成分の溶出パターンを変えた新規肥料を用いて収量向上を目指しました。

【普及活動の内容】

水稻の生育期前半に窒素成分がより多く溶出するように改良された全量基肥一発型の肥料を用い、現地で実証を行いました。田植機の施肥ダイヤルを調節したうえで田植終了後に施肥量を確認し、不足分を畦畔から動噴散布することで、規定量の正確な施用を提案しました(写真)。栽培期間中は、現地調査により生育や葉色を数値化し適切な栽培管理を支援しました。

【普及活動の成果】

水稻跡施肥量の半量で大豆跡「みずかがみ」を栽培した結果、設定どおりの施肥を行ったにもかかわらず、水稻跡と比べていずれも目標の540kg/10aには至りませんでした(表)。両営農法人において、大豆跡であっても半量では施肥量不足であることが示唆されました。そこで、当課の情報誌『鋤と鍬』や管内JAの栽培指針、農談会資料、担い手研修会でこの結果を伝え、地力が低い地帯の大豆跡栽培では水稻跡栽培基準量の7割に見直すことを周知しました。

目標収量を確保するため、品種特性に応じた栽培管理が実践されるよう今後も技術支援に取り組めます。

表 坪刈り収量調査結果

	(kg/10a)	
	大豆跡	水稻跡
西生来営農組合	504	570
八咫の森	502	408

◎対象者の意見

去年より収量は増えましたが、目標収量の540kg/10a達成にはもう少し施肥が必要であることがわかりました。次年度の参考にしたいと思います(法人代表)。